

Neurocognitive profile of euthymic Japanese patients with bipolar disorder

古野, 望

<https://hdl.handle.net/2324/1931772>

出版情報 : 九州大学, 2017, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : やむを得ない事由により本文ファイル非公開 (2)

(別紙様式2)

氏名	古野(石坂) 望			
論文名	Neurocognitive profile of euthymic Japanese patients with bipolar disorder			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	二宮 利治
	副査	九州大学	教授	須藤 信行
	副査	九州大学	教授	神野 尚三

論文審査の結果の要旨

神経認知機能障害は双極性障害の主要な症候の一つである。MATRICS 統一見解認知機能評価バッテリー (MCCB) は、統合失調症の認知機能障害の標準的な評価方法として用いられているが、双極性障害患者の認知機能評価における有用性は十分に検討されていない。

本研究では、寛解期の日本人双極性障害患者 25 名と健常対照群 53 名において、MCCB 日本語版 (MCCB-J) を用いて認知機能を評価し、両群の総合スコアと各評価ドメインのスコアを比較した。更に、利用可能な全てのデータベースを検索し、MCCB を用いて双極性障害患者の認知機能を評価した先行研究を同定し、メタ解析を行った。その結果、寛解期双極性障害患者群と健常群は、MCCB-J 認知ドメイン得点を用いた判別分析により有意に判別可能であった。特に患者群では、視覚学習、社会認知、処理速度、MCCB 総合スコアにおいて、有意なスコアの低下が認められた。また、先行研究のメタ解析では、双極性障害患者は、MCCB 総合スコアおよび全ての認知ドメインにおける有意な機能低下が認められた。一方、海外の研究にくらべ、本研究の日本人双極性障害患者では社会認知機能の低下が顕著であった。この結果の違いは、わが国と海外諸国における社会状況への対処行動の相違に起因すると考えられた。

これらの知見は、わが国における双極性障害患者の認知機能障害を評価における MCCB-J の有用性を示唆するものであり、この方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験は、まず論文の研究目的、方法、実施成績などについて説明を求め、各調査員より専門的な観点から論文内容およびこれに関連した事項について種々の質問を行ったが、いずれについても概ね適切な解答を得た。よって、調査委員合議の結果、試験は合格と判定した。